2022年度「自己評価結果報告書」

学校法人　枝光学園
枝光会附属幼稚園

当園ではこの度、2022年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直す良い機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

Ⅰ. 教育目標

カトリックの精神に基づきながら、子ども達に暖かい雰囲気と良い環境を整え、時代に適した保育を行いたいと考えています。

その為に常に家庭、特に母親との連絡を密にし、神様を愛し、他人をも愛することのできる心を養い、自立心や正しい躾を身につけさせたいと願っています。

又、自然とふれあう機会を持つことによって、全てのものが持つ命の大切さを教えるとともに、情操教育に重点を置き、遊びの中から明るく素直な思いやりのある幼児に育てることを目的にしています。

Ⅱ. 今年度の重点目標

●保育の計画性
●教師としての資質や能力
●保護者への対応
●教師としての専門性に関する研修・研究
●カトリック園として

Ⅲ. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況	
1	保育の計画性	・園の教育課程は社会状況や子どもの実態を考慮しながら必要に応じて見直しを行う。 ・遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量を配慮して用意する。	A	・子どもの様子を観察し、担任が保育後にその学年に合った目標について話し合いを重ね、子どもの実態に合ったカリキュラムを組むことができた。 ・各々の子どもの心や体の発達に応じて、遊びに必要な環境や遊具の見直しを行い、課題に寄り添いながら成長を支えることができた。
2	教師としての資質や能力	・他の教員の意見を素直な気持ちで聞き、自分の意見もしっかりと述べることが出来る。 ・子どもの安全を第一に考え教材や玩具の管理、点検、整理整頓に気を配り、後で使う人が使いやすいようにする。	A	・保育後に担任同士でコミュニケーションをとることを大切にし、若い先生が意見や質問など言いやすい環境作りをすることができた。 ・遊びが充実するように、子どもの発達にそった環境作りに取り組んだ行事などクラス内で反省点を話し合い、来年度に生かされるよう記録に残した。

2022年度「自己評価結果報告書」

学校法人　枝光学園
枝光会附属幼稚園

評価項目		取組み内容	取組み状況	
3	保護者への対応	・保護者からの様々な訴え、要望、意見について安易に受けたり断ったりしないで、園長や副園長に報告や相談をする。 ・保育や子どもの様子を見てもらえるようオンラインで配信を行いつつ、個別面談ができるようにしておく。	A	・保護者から、子どものことだけでなく園や保護者同士の関わり方などについて相談があり、介入の仕方や声がけなど園長・副園長に相談・指示を仰ぎ対応を行うことができた。 ・コロナ感染予防のため一時中止していた保護者との10分面接が再開でき、保護者との距離が縮まり、各々の子育ての悩みを聞くことで、保育に生かすことができた。また、クラスの担任と共有することで、子どもに対して、異なる接し方をしないよう、些細なことでも気付いたら伝え、対応の仕方を話し合った。
4	教師としての専門性に関する研修・研究	・様々な変化の中で子どもにとって何が問題であるか話し合う。（その学年により子どもの様子は違うため、前年度と同じ保育の仕方ではなくその学年に合った保育を考える） ・小学校や保育園との連携を大切にし、幼稚園としてどのような教育を行わなければいけないかについて考える。	A	・常に担任同士が子どもの様子を話し合い、共有できているので、声がけの仕方、対応の仕方など各々の子どもに合った保育を行うことができた。月齢差でできること、できないことがあるが、あきらめたりせずにチャレンジすることを大切に声がけをしていった。 ・就学前の必要な準備をしながら、一人ひとりに合った保育を心がけた。
5	カトリック園として	・保育の中でお祈りの時間以外でも、子どもの言葉でお祈りをする時間をつくったり、子どもからの質問に答えられるように、キリスト教の教えを学び、子どもに伝えられるようにする。	B	・宗教関連の絵本を読んだり、聖歌の歌詞の意味を説明したりすることで、子ども達がより神さまを身近に感じるよう伝えることができた。また、聖劇での各々の役のお話をすることで、取り組み方が変わった。お祈りはどういうものなのか、毎日行うお祈りの時間を通して伝えていくことができた。 ・お祈りは神さまと会話をする時間であることを伝えつつ、子ども自身の自由なことばでお祈りをする時間を十分に作ることができなかった。それでも、子どもからの神さまへの質問などを行うことで、子どもと保育者により理解を深めることのできる機会を提供した。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取組みが不十分である

Ⅳ. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成	・子どもの興味や関心、これまでの生活の様子、これから予想される生活などを考慮し作成する。詰め込み過ぎの保育ではなく、メリハリのある保育、余裕のある保育、子ども主体の保育を行う。 ・教育方針、保育目標である「思いやりの心・がまんする心・豊かな心」を育てるために保育内容や行事を考え、行う。少しずつコロナ前の生活にもどし、縦割り保育も取り入れ、異年齢の子どもとの関わりを大切にしていく。
2	保護者への対応	・子どもの心身の健康と発達の状態について家庭との連携を密にし、専門機関との連携も図りながら適切な指導を行う。 ・子どもについて、保育について、参観日や母の会を行うことで、共通理解を得られるよう努め、必要であれば個別に保育の様子や家庭での様子を話し合える個人面談を行う。
3	健康と安全	・登園時は視診、体温チェックを行い、体調が悪くないか確かめ、保育中様子が気になる場合は適切な処置を行い、すぐに家庭に連絡する。 ・園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はないか、活動が年齢や能力に対して危険でないかなどを常に観察する。
4	小学校との連携	・幼稚園と小学校の先生が共に学ぶ機会を持ち、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して教育の接続を図る。 ・想像力・創意工夫する力・探求心や表現力・協調性・思いやり・意欲・積極性・乗り越える力・粘り強さなど目に見えない「非認知能力」を保育の遊びの中から身に付けていく。
5	カトリック園として	・子ども達から積極的にキリスト教について質問を聞き、保育者が答えられるよう専門書で調べたり、神父様や園長に聞くことで理解を深める。 ・祈りのことばだけでなく、先生や子どもの自由なことばでお祈りする時間をつくる。

2022年度「自己評価結果報告書」

学校法人　枝光学園
枝光会附属幼稚園

Ⅴ. 学校関係者の評価

　先生が、子どもの小さな変化にも気付いてくださり、複数の担任の先生が連携しながら、こまやかにご対応くださることで、安心して園に通わせることができました。

　また、カトリックの教えについて、子どもに分かりやすく伝えてくださり、常に神さまを感じながら周囲の人を思いやる心を育んでいただいたと感じております。

　とりわけ、2022年度は新型コロナウイルス感染症予防対策を維持しながらも、保護者との10分面接や可能な限りの行事を実施してくださり、子どもたちも保護者も充実した園生活をおくることができ、先生方にたいへん感謝しております。

学校評価委員　　齊藤　央

学校評価委員　　茅　　由恵

学校評価委員　　中澤　未来